

## 渋沢栄一研究同好会 座長・濱名均

3年目からのコンセプトは  
「渋沢栄一から始める研究会」  
2026年度で6年目を迎えている  
(2026年3月5日現在)

## 渋沢栄一研究会誕生の経緯と特徴

- ▶ ①2020年1-9月：企業ガバナンス部会小研究会に於いて「**渋沢栄一と経営理念**」で研究し、初めて修正なしでのDFのHP掲載を成し遂げる。
- ▶ ②2021年3月より100歳社会総合研究所「渋沢栄一研究」分科会に於いて座長・濱名均、幹事役藤村峯一以下14名でスタート。2つのグループ編成をし、城山三郎著「**雄気堂々**」の**読書会形式を採用**。20分間の発表と90分間のディスカッションの内容で隔月毎開催。
  - ③2年目は守屋淳訳「**論語と算盤**」を同様に**読書会形式で開催**。
    - \* 極力「単なる知識の披露合戦」を排除した研究会として運用。
    - 外部講師の講演形式は視点とレベルの差異が予想され、排除している。**
  - ▶ ④3年目(2023年)からは、2年間の「研究会/読書会」の成果を踏まえて、基本的に「辿り着いた8つの視点」に対して、「25分間の発表&80分間のメンバーからのコメント・議論」というスタイルで原則隔月の開催 / ・最近では毎月行っている。
  - ▶ ⑤**研究会の最大の目的は「自分の頭・頭脳、言葉」で考えること。**

## 100歳総研 渋沢栄一研究会 第三期 「渋沢栄一から始める研究会」 濱名 均 2023年3月13日

- ・二年間の研究会/読書会で<辿り着いた(6+2)つの視点>
- ①**栄一のパリ万博、渡欧体験から読み解く視点**
  - ・帰国後の国造りの構想をこの渡欧体験で学び確立させた視点
  - ・女子教育、養育院などの福祉政策などの視点
- ②**栄一の開拓事業と今日的要請としての食糧自給体制への視点**
  - ・「十勝清水への開拓」研究。さらに今日的な日本の食糧問題への視点を考える。

- ▶ ③**栄一が憂いた明治政府の教育方針・・論語と算盤「教育と情誼」から、・・・国家100年の計は教育にありという視点**
  - ・「あいつも俺も、同じ人間じゃないか。あいつと同じ教育を受けた以上、あいつがやれることくらい俺にもできるさ」という風潮を栄一は憂っていた。
  - 「明治時代」の光と陰から大正・昭和そして現代を考える視点
  - ・昔は読む書籍がどれも自分の心を磨くことを説いていた。更に磨いたら、家族をまとめ、国をまとめ、天下を安定させる役割を担うという、人の踏むべき道の意味を教えたものだった (P192から)
- ▶ ④**栄一を世に出した、伯樂であった「平岡円四郎」を探せ!の視点**
  - ・「千里の馬は常に有れども、伯樂は常に有らず」(訳文：世間に馬の良し悪しをよく見抜く人がいてこそ、千里も走る名馬というものがありうるのである。名馬はいつでもいるけれど、それを見抜く人はいつもいるとは限らない)
  - ・渋沢栄一を見出した平岡円四郎。坂本龍馬を見出した勝海舟。西郷隆盛を見出した島津斉彬など。

### ▶ ⑤幕末の日本を平和裏に「勢力交代」を成した徳川慶喜、再考の視点

- ・「将の将たる器（うつわ）」としての徳川慶喜を考える」
  - ・「徳川慶喜の大阪城からの逃避の謎を考える」
  - ・経営の要（かなめ）は、リーダーでありリーダーシップである。そのツールとして企業ガバナンスがある。その逆ではないという視点
- ### ▶ ⑥栄一の徳川家康公への尊敬（論語・道徳心への高い評価）から現代では国際社会を理解する国際人として、宗教心醸成の必要性の視点
- ・家康の旗印「厭離穢土欣求浄土」（おんりえどごんぐじょうど）など、最近宗教に興味を持つ（藤村）、この旗印が天下を取り治めたという視点。
  - ・徳川家康をテーマにした読書会の際の共通テキストとして、まだ未読ではあるが「徳川家康という人」（河出新書935円）（本郷和人著）を考えています。新書版なので話題を取り上げやすいと思います。

## 「渋沢栄一から始める研究会」

### ⑦「新しい資本主義」の哲学を考えて実現することの視点

- ▶ <スタート>・渋沢栄一は渡欧（1867年～68年）当時のサン＝シモン主義（友愛社会）やロバート＝オーウエンの空想的社会主義（理想主義）などの影響を受けて、明治の日本経済を主導した。**それらの西洋の思想は一種の社会主義的思想（平等主義）を取り入れた資本主義であった。**ここが日本資本主義のスタートであったと一応評価する。
- ▶ ・「渋沢栄一から始める研究会」の視点は、栄一研究を踏まえて現代において「新しい資本主義」の哲学を成し実現することである。
  - 1、近年の我が国の「貧富の格差」の広がりをどう考えるか。  
世界各国の経済構造を「貧富の差」で見るとどうゆう風景か？
  - 2、「**自然環境を含めた共生社会の実現**」を目指す場合の**哲学は何か**。
  - 3、日本の高度経済成長＝国家資本主義という視点の再考。

## 「渋沢栄一から始める研究会」

### ⑧ネクストステップとして、わが国の経済人及び社会の指導層への行動原理として、渋沢栄一が愛した「武士道精神」の必要性などが挙げられるという視点

- ▶ 新しい社会を形成していく際に求められる考え方、思想、哲学がある。江戸時代（あるいは幕末と明治維新誕生をも含めて）までにあった、民衆の中にまで浸透していた**「武士道精神」という日本的な価値観**を考えてみることは、本渋沢研究会の本流の一つでもある。
- ▶ 新しい社会の哲学と同時にそれを成し得ていくリーダー論とリーダー像がある。またリーダーを支えていくグループを研究する必要がある。
- ▶ それは民衆主義（ポピュリズム）なのかそれともエリート主義なのか我が国の近未来との関係性は？世界への通用度は？

### 2024年からの、辿り着いた8つの視点に関係する、各研究員からの研究報告

- ▶ ①藤村峯一：第7号テーマ「新しい資本主義の哲学を考えて実現することの視点」、夏目漱石の思考の援用による発表
- ▶ ②西村二郎：同上の第7号テーマに隣接。ご自身の「渋沢栄一と経営理念」からの報告。座長は「専門性の罫」に挑んだ発表と評価している
- ▶ ③濱名均：第8号テーマ「武士道精神」という日本的価値観の序説。
- ▶ ④東條保子：第8号テーマ「武士道精神」より、武士道精神の現代企業への応用・展開の試み
- ▶ ⑤東條保子(伴走濱名均)：上記第8号テーマの続き、道教（老子・荘子の思想)を中心とした東洋思想の現代西洋社会への影響等々
- ▶ ⑥4月12日、⑦6月14日、藤村峯一（濱名均伴走）：「先の日本の大戦」の来し方、なぜ直前に於いて避けられなかったのか？、終戦を7か月前に何ゆえ成せなかったのか？（一つの視点はリーダー像の視点）